

教科	理科
第 6 学年『体をめぐる血液—人の体のつくりと働き—』	
日時	6月 29 日(月)
授業者	伊藤正統
本時のねらい	血液の流れについて多面的に調べる活動を通して、それらの結果を関連付けて血液の動きを推察することで、心臓の働きによって血液が体全体をめぐり、養分や酸素、二酸化炭素などを運んでいることを捉える。
キーワード	心臓、血管、血液の循環、拍動、脈拍、聴診器、パルスオキシメータ
授業の実際 (本時の子供の姿)	前時までに養分や酸素、二酸化炭素が血液で運ばれることを学習してきた。そこで、その養分や酸素がどこにいくのか血管や血液の流れを基に探った。子供は、血液が指先、足先まで行っていること、心臓から押し出されていることは予想していた。腕を押さえたり、手を心臓より高く挙げたりすると肌の色が変わることや脈拍や拍動をはかり、血液が体のあちこちに行っていることを確かめることで、血液が全身に流れていることを実感していた。
事後協議の概要	一人一実験をしていくことで、互いのデータを見合い、対話する必然性が生まれていた。 実験の目標と実験とのつながりや整合性を子供が見いだせていれば、もっと活発な話し合いになり、深まったのではないだろうか。子供が実験の意味や見通しをもてるような手だてが必要であった。 血液が流れることや養分・酸素が全身に運ばれることと、血液が循環することの関連付けが難しく、飛躍が見られたので、「血液の流れ」、「血液の循環」に分けて指導してもよかった。

※写真を数枚(授業の様子が分かるもの・協議の様子等)

